



かがやけ憲法

キャラバンニュース

- ★北海道→青森→岩手→秋田→山形→宮城→福島→新潟→群馬→栃木→茨城→千葉
- ★山口→広島→島根→鳥取→岡山→香川→愛媛→高知→徳島→三重→岐阜→愛知→静岡
- ★鹿児島→熊本→長崎→佐賀→福岡→大分→宮崎→兵庫→大阪→和歌山→奈良→京都→滋賀
- ★福井→石川→富山

国民の知る権利踏みにじる

戦争への道に繋がる秘密保護法は廃案に

●11/25～26 福井

敦賀市・小浜市・鯖江市・越前市・福井市と原発問題等で懇談

11月25日、冷たい雨と強風の中始まった福井コースでは、敦賀市・小浜市・鯖江市・越前市・福井市の5自治体への要請とJR福井駅前宣伝を行いました。自治体要請では、特定秘密保護法、最低賃金、公契約条例、介護保険問題、消費税問題、原発廃炉に向けた取り組みなどについての要請と意見交換を行いました。



敦賀市では、対応した商工政策課長が最低賃金問題にかかわって、市の臨時職員の賃金を最低賃金で雇っているの、引き上げを国に要請する気はないと発言し、参加者の怒りを買いました。

小浜市では、総務部次長から福島原発事故直後に市議会が脱原発を決議し、特別委員会を設置して取り組みを行っていることが紹介されました。原発の10キロ圏内に市の大半が含まれるものの「立地自治体」ではないために事故時にも直接情報が提供されないことも大きな問題だと発言がありました。

キャラバン2日目は福井駅前での早朝宣伝活動で始まりました。根本副議長、平澤県労連議長が「秘密保護法は国民の知る権利を踏みにじり、戦争への道へとつながる悪法。反対しよう」「全国一律最賃制度を実現してワーキングプアをなくそう」と訴え



ました。

鯖江市との懇談では市の職員の約半分が非正規化されていることなどが明らかにされました。平澤議長から「県内の雇用状況を改善するためにも市が率先して正規職員を増やすように努力すべきだ」と訴えました。

越前市では、市内の製造業を中心に働く日系ブラジル人の子どもたちの人権を守るために子ども条例を定めて、市独自の教員加算などを行い子どもたちが自立できるよう取り組みを進めていることが、行政管理課長から紹介されました。キャラバンカー運転手の小林さん(埼教組)からは、「教育の充実は大切だが、教員に過重な負担にならないかチェックしてほしい」と要請を行いました。

●11/29～30 石川

平和運動センター、石川テレビ労組、金沢大学教職員組合と懇談

11月29日、キャラバンは石川に入りました。この日は朝7時20分から、金沢駅前で、出勤途上の市民の皆さんに、「憲法を守ろう」「秘密保護法案を参議院で廃案にしよう」と呼びかけました。

この日はあいにくの荒模様。みぞれから雪に変わるなかでしたが、そろいの黄色いジャケットに身をつつみ、15人で元気に宣伝を行いました(既報No.025)。

11時から石川県平和運動センターと懇談。県労連からは小倉議長と長曾事務局長、全労連・江花常任幹事、平和運動センターからは中村照夫事務局長が対応し、憲法改悪や秘密保護法案めぐる情勢や取り組みについて懇談しました。

平和運動センターからは秘密保護法反対の座り込みを昨日から実施(12月6日まで)しており、今日のみぞれ・氷雨の中だが、実施していることが話され、県労連も応援に行こうと話が弾みました。

平和運動センターとは憲法改悪反対の取り組みで共同が進んでおり、11月24日にも共同の集会を成功させたばかり。2月にも共同集会を取り組もうと話しています。

昼休みには、金融街で宣伝。通常なら、昼食やお弁当を買い求めにたくさんの勤労者があふれてくるのですが、あいにく冷たい氷雨が激しく降っており、通る人は少数でしたが、秘密保護法の危険性、反民主主義性を訴えました。行動には県労連のほか、宗教者平和評議会から袈裟姿での参加等もあり、秘密保護法反対の横断幕も掲げ、アピールしました。

15時には、中央公園で座り込む平和運動センターのメンバー6人を激励した後、上部団体未加入の石川テレビ労組と全大教加盟(県労連未加盟)の金沢大学教職員組合を訪問。

石川テレビ労組議長の越塚さんは、「上部団体等に加入していないので鎖国のような状態だ」としながら、賃上げや一時金要求はしており、冬の一時金についても前年並みを獲得しているなどと述べました。県労連からは「秘密保護法や憲法改悪に反対する運動、共同の取り組みが広がっているが、いっそうそうした広がりを作るためにも一致できる課題での共同をお願いしたい」「メーデーにも参加してほしい」と要請しました。

金沢大学教職員組合では矢淵孝良委員長(外国語教育研究センター教授)と懇談。憲法改悪や秘密保護法制定など危険な安倍内閣の見方で一致。憲法集会実行委員会などへの取り組みや春闘共闘への参加などを呼びかけました。また教職員組合が取り組んでいる全大教署名への協力を要請され、積極的に取り組むことを約束しました。



キャラバン隊はその後、イオン前(17時から)と繁華街・香林坊(18時から)の2か所で街頭宣伝を実施。香林坊ではチラシに「飴」をつけて配布すると女子高校生らが歓声を上げてビラを受け取っていました。この宣伝中もあられや小雨が降る散々の天気でしたが、秘密保護法の危険性を訴え、ともに声をあげ、秘密保護法を廃案に追い込みましようと呼び掛けました。

翌30日(土曜)の午前中は、駅前で宣伝。大型ショッピングセンター前とあって、子ども連れも多いことから、風船と一緒に配布。にぎやかに宣伝を行い、午後から宣伝カーは富山に移動しました。

●11/29 茨城(2日目)

取手・つくば・土浦市へ要請、国土地理院の職場も訪問

2日目の茨城県内のキャラバン行動は11月29日、取手市、つくば市、土浦市を回り、各所で要請・懇談、街頭宣伝に取り組みました。自治体要請には、茨城県労連から石引議長、岡野(県高教組委員長)、山口(県国公委員長)の各副議長、丸山事務局長のほか、自治労連やJM IUから代表が参加、全労連から黒田常任幹事が参加しました。

土浦市役所では、市長公室の中野秀彦秘書課長、商工観光課の飯村甚課長、社会福祉課の宇都野和司課長ら(写真)が対応し、約1時間にわたって懇談しました。

懇談では、土浦市が「つちうら戦略プラン」にもとづいて5年計画でさまざまな施策の拡充に取り組んでいることが紹介されました。土浦市では、中学3年までの医療費を無料化し、高齢化対策では、介護予防としてお年寄りの運動施設の拡充などをすすめています。

国への要望や意見などを質問すると、「地方分権がすすみ、自治体の仕事が細分化しているが、その一方で国からの予算は増えない。そうしたなか市として行政改革に取り組み、職員を減らさざるをえない状況だ」など率直な意見がだされました。

子どもの医療費などで国を上回る措置を実施しているなかで、懇談では、日本中どこに住んでいても格差のない制度にしていくことは、憲法にもとづく国の責任であることなど意見を交わしました。

原発事故による放射能対策では、各所で線量を定期的に測定したり、市民には無料で食料品の放射線量をはかれる測定器を準備しているとのことでした。また、中学生の代表団を毎年8月に広島へ派遣するなど、平和教育も積極的に取り組んでいます。

取手市では蓮沼和弘広報広聴課副参事、つくば市では市長公室の宇津野茂樹次長、藤後誠政策監がそれぞれ対応しました。

つくば市役所への要請の後、筑波研究学園都市にある国土地理院を職場訪問しました。国公労連加盟の国土交通労組(旧全建労)の仲間が働いています。組合役員のみなさんと懇談し、戦時中は地図が国家機密になったことなどの話を聞き、はるか彼方の星に電波を反射させて地球上での日本の位置を計る巨大なパラボラアンテナを見学しました。この観測で、ハワイが日本に徐々に近づいていること



がわかったそうです。

大きな宣伝カーが職場にやってきたのは初めてとのこと、キャラバン隊の訪問をととても歓迎してくれました。

各所への要請とあわせて、取手駅前、土浦駅前、つくば駅前にキャラバンカーを止め、チラシを配りながら宣伝しました。2日間の行動の締めくくりとなったつくば駅での宣伝には、夕暮れ時の冷え込むなかを約20人の組合員が参加し、イルミネーションが輝く通りを歩き交う買い物客に、風船やティッシュを渡して署名への協力も訴えました。

●11/29 静岡(1日目)

脱原発・再生可能エネルギーの活用等で浜松市と懇談

全労連全国キャラバンは11月29日浜松入りし、午前10時から浜松市役所での要請行動、12時から13時までJR浜松駅前での宣伝行動、14時から聖隷福祉事業団労働組合への訪問の後、静岡へ移動しました。



浜松市役所への要請では、中山益則全労連共闘局長、林克静岡県評議長、嶋田博西部地区労連議長など6人が参加し「憲法をいかし、くらしと雇用、平和を守る課題についての要請」を鈴木康友浜松市長に対しておこないました。当日は議会本会議開催中のため、浜松市側は太田毅産業総務課長以下5人が対応し、約50分にわたって地方公務員もしる秘密保護法案の問題、安倍内閣がすすめる労働法制改悪に対し働くものの立場にたった行政の支援、地域振興について意見がかわされました。

特に、脱原発・再生可能エネルギーの活用の問題では、市側も大いに関心をしめし、80万都市に隣接する森林資源の活用や太陽光発電推進の取り組みを披露し、林県評議長が視察したドイツのエネルギーの地産地消の取り組みなどで意見交換が深まりました。

JR浜松駅前での秘密保護法案反対・憲法を暮らしにいかす宣伝では14人が参加。全労連、県評、西部地区労連の代表が次々とマイクをにぎり、全労連キャラバンの取り組み、秘密保護法の危険なねらい、静岡県で関心の高い再稼働反対にかかわる原発情報も秘密にされることなどが次々と訴えられました。

JR浜松駅では、秘密保護法案について11月24日の浜松革新懇の50人参加での宣伝以降、弁護士グループによる平日の昼宣伝が連日行われており、連日のマスコミ報道もあり、市民の関心も高く用意した秘密保護法反対のビラは、通常に倍する枚数が配られました。

